

平成 29 年度 (2017) JBCF 事業報告書

平成 28 年 (2016 年) 10 月 29 日第 3 回 JBCF おおいた いこいの道クリテリウムの開催日に平成 29 年度の「J PRO TOUR 選考基準とスケジュール」を発表しました。

その内容は「選考基準は前年の基準と同様とし 2016 年最終年間ランキング上位 15 チームプラス J P T 参加希望チーム合わせ 22 チームを選出する。11 月 24 日の選考会議を経て 12 月 10 日に正式発表を行う」というものでした。

2016 年 12 月 10 日、品川区上大崎の自転車総合ビルにて、2017 年度事業活動方針発表会を開催し、2017 年度の JBCF 基本方針は「継続 拡大 向上」であることをメディア、チーム関係者などへ発表しました。また、最終選考会を経て、UCI コンチネンタル 9 チームを含めた継続 22 チームに 2017 年 J PRO TOUR チームライセンスを付与しました。その内 1 チームが辞退し、実際の登録は、21 チームとなりました。

また年間大会スケジュールの発表に際しては、J P T 全 22 戦、J E T 全 41 戦、J F T 全 42 戦、J Y T 全 4 戦となることと第 1 回となる新規開催大会 6 大会の説明を行いました。

トピック

1967 年創立の当連盟は任意団体を経て 2017 年度に 50 周年を迎えました。

この記念すべき年度に下記のような事業を実施しました。

1. 50 周年記念誌を 4,000 部編集、発行し自転車関連各団体に配布するとともに J B C F 登録 335 チーム全ての登録選手 2,932 名に 2018 年 1 月に無償配布
2. 50 周年記念パーティーを 2017 年 12 月 16 日 18:30 から招待者、関係者、有料入場者含め 85 名を集めて目黒区雅叙園のアルコ ザ ガーデンにて開催
J C F 橋本聖子会長はじめ関係団体代表に来临ご祝辞を賜り、J B C F サンクスアワードでは個人、チームの功労を称えまた故人となられた J B C F 公式カメラマン高木秀彰氏の功績を忍びました。
J B C F 未来を語るトークショーではこれからの夢を片山右京、廣瀬佳正、安原昌弘、野寺秀徳、今中 大介氏らが栗村修の進行にて熱く語っていただきました。
3. 50 周年記念グッズの制作
創立 50 周年のロゴを制作するとともにそのロゴを職員や役員の名刺、ホームページ、大会要項、大会プログラム、ポスター、チラシ、公式ガイドブックなど多くの媒体に露出したほか J P T 大会会場での装飾物であるフライングバナーなどを制作。また参加者記念品としてロゴ入りナップザックを 5,000 枚制作し、一部の大会開催地には購入頂くなど有効に活用できたと考えます。

継続

2017年度も引き続きJ PRO TOURを魅せるレースに成長させるため、以下のような活動を行いました。

1. JKA 補助金による大会開催継続

JKAの補助金対象大会として、今年度は下記ロードレース4大会、トラックレース3大会の全7大会を開催することができました。うち6大会は連盟設立時、あるいはその直後より継続開催されており、当連盟にとって歴史ある重要な大会となっています。

収益事業の少ない連盟運営にJKA補助金は、連盟活動の進化に大きく寄与しています。

- ① 第51回 JBCF 東日本ロードクラシック (4月22日、23日: 群馬 CSC)
- ② 第51回 JBCF 西日本トラック (5月7日: 岸和田競輪場)
- ③ 第51回 JBCF 西日本ロードクラシック (7月1日2日: 広島中央森林公園)
- ④ 第16回 JBCF 石川サイクルロードレース (7月16日: 福島県石川町)
- ⑤ 第48回 JBCF 東日本トラック (8月6日: 松本市美鈴湖自転車競技場)
- ⑥ 第48回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ (9月10日: 伊豆ベロドローム)
- ⑦ 第51回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ (10月28日: 群馬 CSC)

2. Jスポーツ「J PRO TOUR 開幕前特別番組」

3月10日深夜1時に、Jスポーツで「J PRO TOUR 開幕前特別番組」を放映しました。その後、再放送4回行いました。

大会終了後は、同じくJスポーツにて、15分のダイジェスト映像の放送を行いました。

3. 2017年のJ PRO TOUR チーム登録条件

2016年11月1日2017J PRO TOUR チーム登録条件を次のような内容にて通知、案内しました。

- ① 2017 J PRO TOUR 参戦チームは、シード15チームとシード外7チームの総数22チームとする。
- ② 新規、継続のシード外チームは主催者枠で選出される。
大会別のワイルドカードはJBCFが保持している
- ③ チーム運営会社は法人化されていること
- ④ 個人ステータスは2015年より撤廃されているが、以下条件の監督推薦とする。
下限枠はJCF2年、JBCF1年以上の加盟と年間3レース以上の出走実績
- ⑤ チーム分担金
チーム年会費、個人年会費とは別に分担金として100万円(税別)。3月末までに納付すること。分担金は2017年度JPT全大会の参加費、広報費(動画作成、配信)の一部などに充当する
- ⑥ チームアテンダント講習受講者や有資格者1名以上のチーム在籍

4. JBCF ROAD SERIES 2017 年間アワード

例年通りサイクルモード幕張メッセ（11月3日）のメインステージで多くの観客を前に実施しました。

チーム総合優勝：マトリックスパワータグ

個人総合優勝（ルビーレッド）：ホセ・ビセンテ（マトリックスパワータグ）

個人新人賞（ピュアホワイト）：雨澤 毅明（宇都宮ブリッツェン）

J ELITE TOUR チーム総合優勝：弱虫ペダルサイクリングチーム

J ELITE TOUR 個人総合優勝（ネクストイエロー）：岩崎 晶雲

（グランパールサイクリングチーム）

J FEMININE TOUR 個人総合優勝（シスターローズ）：唐見 実世子（弱虫ペダルサイクリングチーム）

J YOUTH TOUR 個人総合優勝（アクアブルー）：津田 悠義（EQADS）

JBCF 広報ブースは幕張メッセ（11/3～11/5）に出展し、YouTube で放送した 2017 年 J PRO TOUR 全レースの動画を大型モニターで流すなど広報活動に努めました。

拡大

1. 大会開催数

2017 年 JBCF ROAD SERIES は、J PRO TOUR 全 22 戦、J ELITE TOUR 全 42 戦、J FEMININE TOUR 全 43 戦、J YOUTH TOUR 全 4 戦を予定した。TWO IN ONE 大会は、J PRO TOUR の大会では、2015 年度 6 大会、2016 年度で 8 大会であったのを 2017 年度は 9 会場に拡大し、加えて J ELITE TOUR 中心に開催している普及目的の大会の 4 大会についても TWO IN ONE 大会と設定とした。

参加人数の増加など予想通りの成果を上げることができました。

尚 3 大会が変更とキャンセルとなりました。第 2 回 JBCF ブルータイムトライアル in 鴨川（5月22日/悪天候、中断）、第 2 回 JBCF 維新やまぐちクリテリウム（9月17日/キャンセル）、第 3 回 JBCF 南魚沼ロード&タイムトライアルと第 4 回 JBCF 南魚沼ロードレース（第 51 回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ）（10月28・29日/コース崩落により開催地変更）

第 10 回を迎えた輪島ロードレース（禅の里ロードレース）は 2007 年に発生した能登半島地震の震災復興支援大会として開催されたもので、その使命を終えたとの開催地の意向を受け今年度で終了となりました。

また新規大会として以下の 6 大会が追加されました。

- ① 宇都宮ロードレース（3月19日 栃木県宇都宮市）
- ② 那須塩原クリテリウム（栃木県那須塩原市）
- ③ 那須ロードレース（栃木県那須町）
- ④ 大田原クリテリウム（栃木県大田原市）
- ⑤ やいた片岡ロードレース（栃木県矢板市）
- ⑥ 秋吉台カルストロードレース（山口県美祢市）

※②、⑥の2大会においては、J PRO TOURにて、チームカーの運用がされ、さらなる拡大と向上が成された。

2. 登録選手数

2016年12月末現在、JBCF登録選手は2,932人(前年比100.7%)、335チーム(前年比105.7%)となりました。

また大会参加者総数は12,787人(前年比92%)となりました。

向上

1. 講習会の実施(受講者総数946名)

毎年増加する新規チームや選手への競技規則の周知、競技レベルの向上、大会運営に携わるチームスタッフ、競技役員などのブラッシュアップを目的に下記のような講習会を実施しました。

また、各チームアテンダント講習会では、JCFにご協力いただきアンチドーピング講習会も併催しルールの徹底を啓蒙しました。また、本講習受講者は、写真撮影を行い、JCFライセンス発行時は、顔写真入りのライセンス発行を行いました。

(1) JCF公認 チームアテンダント講習会及びアンチドーピング講習会

- | | | |
|---|-------|------|
| ① 東京地区8回(2/4、5、2/11、12、2/19、3/25、8/19、20) | 受講者総数 | 598名 |
| ② 大阪地区5回(2/18、19、3/12、6/11、9/03) | 受講者総数 | 277名 |
| ③ 愛知地区1回(8/26) | 受講者数 | 28名 |
| (2) JCF公認3級審判講習会 東京地区(2/12) | 受講者数 | 21名 |
| (3) ドライバー講習会・日本サイクルスポーツセンター(3/05) | 受講者数 | 22名 |

2. JスポーツでJ PRO TOUR 14会場22レース全戦ダイジェスト速報配信

3. レース発信力の向上

- ① TwitterによるテキストライブはJPT全22戦で配信を行いました。レース展開を知る上での有力な情報ツールとして今後は内容を向上することを目指します。
- ② JPT全22戦中9戦で音声によるライブ配信を行いました。
 - ・石川サイクルロードレース(7月16日)
 - ・みやだクリテリウム(7月23日)
 - ・大田原クリテリウム(7月29日)、やいた片岡ロードレース(7月30日)
 - ・タイムトライアルチャンピオンシップ(9月3日)
 - ・まえばしクリテリウム(9月23日)、まえばし赤城山ヒルクライム(9月24日)
 - ・輪島ロードレース(10月8日)
 - ・経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ(10月28日)

4. JBCF 公式ガイドブックの発行

2008年初発刊の「J ツアー：旧称」公式ガイドブックを2017年も継続制作し、3月18日のシリーズ初戦、第4回 JBCF 宇都宮クリテリウムの会場にて配布開始しました。今回も引き続き自転車専門誌「バイシクルクラブ」2017年5月号（3月20日発売）の付録として制作し、出版元の樫出版社は宇都宮の会場にブース出展し本誌の有料販売を行いました。発行部数は15万部であり JBCF 単独での配布数2万部を大きく拡大することができました。

同じくNTTドコモのスマホ有料アプリ「dマガジン」に掲載されました。

5. 海外レース参加助成金の支給

JPT登録チーム対象に海外UCIレースに参加した場合に1大会10万円（上限5大会）の助成金の支給をすることとしました。5チームから、17大会分の申請がありUCIポイント獲得への支援策として有効に利用されました。

以上